

平成30年度第3回小牧市男女共同参画審議会会議録

- 1 日 時：平成31年2月18日（月）午後1時30分～
- 2 場 所：小牧市まなび創造館 研修室
- 3 [出席者]
委 員：代田義勝、松田照美、宮崎康弘、平林克之、大鹿幸子、近藤正司
武藤敦子、伊藤幸子、籠橋幸子、伊熊啓人
事務局：伊藤部長、松浦教育部次長（社会教育担当）
平岡館長、坪井係長、西主事補
[欠席者]
なし
[傍聴者]
なし
- 4 議 題
 - (1) 第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容について
 - (2) 平成31年度教育委員会基本方針重点施策について
 - (3) 平成30年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- 5 その他

1 開会

[平岡館長]

皆さん、改めまして、こんにちは。

本日は御多用のところ、男女共同参画の審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから第3回目の小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。

本日は傍聴の方はいらっしゃいません。また御欠席の方もいらっしゃいません。

本日の会議は公開としております。議事録は情報コーナー等に公開をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、教育部長の伊藤から挨拶を申し上げます。

2 挨拶

[伊藤教育部長]

改めまして、こんにちは。

委員の皆様方には、日ごろから男女共同参画推進について御指導・御協力をいただきましてありがとうございます。

男女共同参画は社会全体で取り組むべき最重要課題として位置づけられており、本市におきましても、第3次小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢ及び小牧市女性活躍推進計画に基づき、男女共同参画社会実現のためのさまざまな施策を実施しております。

今後も、男女共同参画社会の実現に向け、当審議会の皆様から御意見・御指摘をいただき、計画を実効性のあるものにして推進していくよう取り組んでまいりたいと考えております。

本日の議題は、(1)第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容について、(2)平成31年度教育委員会基本方針重点施策について、(3)平成30年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてと大変盛りだくさんとなっております。限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

[平岡館長]

続きまして、代田会長より御挨拶をお願いいたします。

〔代田会長〕

改めまして、こんにちは。

本日は大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私、本年度、男女共同参画審議会とは別に、小牧市のまちづくり推進計画審議会にも委員として参加させていただいております。

そちらは部会がありまして、第1部会は防災、生活安全、ごみ対策、環境、それから商工業、農業、さらには河川と都市交通とあり、第2部会には教育、スポーツ、文化、男女共同参画、あとは福祉と医療になっています。私の所属は第1部会ですが、特に男女共同参画については気になるものですから、議事録をみますと、男女共同参画について、いろいろ委員の皆さんから意見が出ており、特に男女共同参画普及員についての質問が結構多く出ています。

実は、男女共同参画普及員は小牧市の場合、かなり以前から導入をしています。導入の経緯は、よそがうまくやっているから導入するという形で導入したわけではなく、当時、男女共同参画審議会から区長を対象に調査をしてもらいました。調査の結果、小牧の場合は、伝統的な地区・保守的な地区とまた新しい新興地区とで、かなり地域で違いが見られました。小牧の場合、男女共同参画を進める上ではしっかりその地域に根差した、地域の実情に合わせた形で男女共同参画を進めなければならないということで、普及員を地区で出させていただいて、実情に合わせた形で広げていきましょと、そういう議論があって普及員を導入しました。それこそ借り物ではなく、むしろしっかりと審議会の中で調査も踏まえて議論して導入しました。

当初は目新しさもあり伸びました。ところが、少しずつじり貧といえますか、なかなか伸びないというような状況になっています。

先ほども平岡館長と話しをしていましたが、町内会の役員になることがかなりハードが高くなっているのではないかと。かなりオリジナリティーといえますか、しっかり議論した上で導入しましたが、なかなか伸びないのであれば、伝統は大切にしつつ何かもう一つ別の方向性、新しい形も考えなければならないと思っているところです。また皆さんから御意見をいただければと思います。

本日は3つ議題がございます。御発言、どうぞよろしく願いいたします。

〔平岡館長〕

どうもありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。

小牧市男女共同参画審議会規則第2条の規定により、ここからは代田会長に取り回

しをよろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容について

[代田会長]

議題1、第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容について、事務局から、簡単に御説明をお願いします。

[平岡館長]

それでは、資料1をご覧ください。

これは第2回の審議会と同様に関係課から提出された管理シートになります。31年度以降の取り組み内容の計画案で、修正があった内容について赤で記載しております。委員の皆様から質問あるいは御意見をいただきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。

[代田会長]

それでは、御意見、御質問等ございましたら御発言ください。

[伊熊委員]

2ページの危機管理課ではありますが、赤字で修正が出ております。ここは小牧防災リーダー会との協働事業で開催する講座についてを限定して書いてありますが、ここに限定することはどうしてなのか。

ボランティアの活動というと結構女性の方が多く、気になる場所ですから、防災ということにつきましてはもっと幅広く網の目をかけるような活動とが必要と考えています。

小学校、中学校の先生方、自主防災会の方から、講演だとか体験型のゲームを依頼されたときに危機管理課を通して進めていますが、そういう点で見たときにそれだけに限定されたとり方だと少しまずいかなと思えます。

[近藤委員]

その件で、いいですか。

数値目標で女性、男性の比率が必要なのかということも疑問なのですが、現状は本当に防災の関係はもう危機的な状態だと思っています。町内の自主防災会などは本当にこれで機能するのかというように感じます。

これは指揮命令したときに皆さん動いてくれるか。女性はどこに配置するか。例えば民生委員さんとか、どこに寝たきりの方がいるとか、そのようなことも把握していないと機能しないと思います。ただ数字だけで女性が20%と数字だけでやる意味があるのかなと思いました。

〔伊熊委員〕

私もそれは同感です。

危機管理課との協働の中で、協働推進課も含めて、目標値は件数ですが、件数の今年度は40件弱ぐらい、50件は超えるかもしれませんが、目標の25に対しては大幅にクリアをします。一つ一つの案件に対する中身がどうなのかというところが一番大事なところですよ。

そうすると、やはり参加された方に対し、僕らがやったことが皆さん方の本当に役に立つのかどうか、アンケートを行いフォローしましょうと。2年前ぐらいからそういう形で行っております。

一つ一つの案件から、定例会の中で検討することが、次のステップにつながるだろうということで、パーセントあるいは達成率にこだわらない。危機管理課とも同じ意見です。

〔近藤委員〕

ただ数字を求めているから、人数をかき集めた感じで一番頭が区長とトップを決めていて、この人がリーダーシップをとって指揮命令系統全体に把握してやれるのかという組織表になっていないですよ。

〔伊熊委員〕

私もそれは思いますが、先ほど話が出ておりますように、区の役員になりたくないんですよ。早く1年を過ぎてもらいたいという意識が物すごくあるんですよ。

なので、防災関係については、結局、継続性という大事なところも抜けおちているんですよ。

〔近藤委員〕

本当ですね。そのとおりだと思っています。自分も危機的に感じているものですから、今マンションの理事長をしており、マンションの自主防災会をやっていますが、いかに指揮命令系統を立て、皆さんで助け合ってやるか、どこの部屋にお年寄りがいて、どうしたらいいかということも含めてその辺も考えていますけど、上から紙切れ1枚で自主防災会はこれだけの人数が必要ですよと数字を求められちゃうものですから、本当に苦し紛れで集めてきたというメンバーになってしまうんです。だから今言われるとおりのリーダーだけでもしっかりしたリーダーをつくっていくことがまず第一歩だと思います。

〔伊熊委員〕

自主防災会というのは、その区長さんが会長に選ばれるところがほとんどだと思うんですよ。しかし自主防災会はそういうことではなくて、2年、3年ぐらい最低でも会長をやるべき。そういう組織づくりをしてないと、自主防災会は分断してしまった形で、結局指揮命令系統が全然伝わらない。

〔近藤委員〕

そのとおりで、この前少し市長とお話しする機会がありましたので、その危機管理に関してはどうだと聞くと、受け入れているから皆さんに指導しますので来てくださいということなんです。

だから、どれだけ危機管理を感じているのかなということがあり、市長もそうですが、今の現状からすると、言われているような数値目標を立てても、自分の意見としては無理かなと。ほかの方はどう思われているかわからないですけど、もう少し現状を改善できるような方向に持っていくというものが大事じゃないかな。

だから、リーダー指導されているということをお聞きして、そのあたりも頑張ってもらえたら、もう少し充実すると思います。

〔代田会長〕

危機管理課の目標管理シートになりますが、どのような状態にするのが、が「小牧防災リーダー会との協働事業の開催する講座」に修正されたところですね。

〔平岡館長〕

今回、赤くなっているところが前回と修正したところで、今までは各種防災訓練となっていますね。

〔代田会長〕

そうですね。それでよかったんですね。

〔平岡館長〕

本日は、担当課が来ておりませんが、今よく言われているのは男女共同参画の視点、女性の視点を持って避難所の運営とかそういうものをしないと、実際避難所になったところでとても女性が困っているということと、災害が働く男性たちがいるときに起こるわけではなくて、いつ起こるかわからない。昼間のときにお年寄りや働いていない女性の方しか家にいないときに、災害が起きた場合に誰がどう対応して指揮系統をしていくかということで、だから女性のリーダーをつくっていきましょうというところが目標になっています。

なので、女性で防災リーダーもつくっていきましょうというのが危機管理課であるというふうに聞いていますので、その視点です。

〔伊熊委員〕

ただ小学校、中学校の防災訓練でいったら、そこはまだ男性のほうが多いと思います。ただボランティアの団体の皆さんからすると、女性のほうが多い。

〔平岡館長〕

講座に参加したということなので、ボランティアの数字ではないと思います。

〔伊熊委員〕

でしょうね。

ただ、防災リーダー会という数字ではないというふうに私も解釈はしておるんです。

〔平岡館長〕

そうですね。これはリーダー会と協働にした講座に地域の方がどれだけ参加しているかということなんです。そこに女性の方も参加していただきたいというところだと思います。

〔伊熊委員〕

そうなんです、協働事業で行ったときに、男性が何人出席して女性が何人出席し

たということをまとめて、ここもそうだと思うんですよ。だから、それが1つあるのかなあと思っています。しかし、そのほかにもたくさんの活動がありますよね。

[平岡館長]

今、女性の防災リーダーをつくりなさいと危機管理課が多分言われてきているからだと思います。

[伊熊委員]

そうするとやはり女性リーダーの育成等を何か書いておかないと少しわかりづらいですね。

何かこれを見ると、防災リーダー会の私たちが全面的にやってくださいとなっているような感じがしましたので、それは済みません、勘違いです。

[松田委員]

済みません、議論を戻すような感じで。

この小牧防災リーダー会との協働事業で開催する講座という書き方がしてありますが、具体的にはどのような講座のことですか。

[伊熊委員]

協働事業で今行っているのは、防災・減災の教育支援ということです。教育支援とは、避難所運営ということで実際に避難訓練という場で、避難所の運営をゲーム感覚でどのように行っていくか体験したり、災害図上訓練ということで、地図上から見たまちの危険度、それに対してどういう対策をとっていったらいいだろうかということ自治会単位や学校単位で地区の問題を解決するために、防災マップをつくったりします。

それから、皆さん日常的にトイレというものの問題意識がないので、簡易トイレをつくりながらトイレの問題をどのように捉まえていったらいいかとか、あるいは自分のトイレは自分でつくるんだというようなところを皆さんにお話ししています。

それから、非常食といっても学校関係に蓄えてある非常食はほんのわずかしかないんですよ。皆さん、大抵避難所へ行ったときに食事がもらえると思っていますが、ほとんどないということになるはずですよ。したがって、自分の食事は自分が持つていくこと。それも国は3日間と言ったのが7日間という形になっていますから、7日間の持ち方、どのように持つていったらいいかとか、そのようなことを皆さんと一緒に体

験しながら実行すると。皆さん自宅に帰って、あるいは自治会に帰って実行していただく。体験をとおして仕掛けているというのが防災リーダー会です。

[代田会長]

すごい充実した防災リーダー会ですね。

[伊熊委員]

別に、そこが目的で活動しているものなのですが、大体40件前後の申し込みがあり、毎週やっているような感じになるんですよ。毎週、土日出て。それがことし2月、6月、9月だとか10月は集中するんですね。そうするともう大変なことになるので、危機管理課と連携して、もう少しばらした形をお願いできないかという形をやっております。

その中に、先ほど出ていましたように男性と女性といったときに、避難所でいったら女性の役割がすごく大切なんです。女性の役割を中心に、まなび創造館の講座の中でも、女性が主体となって避難所を運営するんだということをお話をさせてもらっております。

[代田会長]

小牧防災リーダー会さんがやっている講座内容がすぐれてしっかりしたもので、だからそこに参加することが、特に女性の方に参加していただくことがそれぞれ防災体制の構築にとって非常に意味があると、そういう視点ですね。

[伊藤部長]

今、伊熊委員から御指摘いただいた件ですが、危機管理課の2ページに各種防災訓練にというものが見え消しになっていて、防災リーダー会と協働事業で開催する講座と書いてあります。次の3ページをごらんいただきますと、消防総務課で、こちらでも防災等の場における男女共同参画の推進というものが具体的施策の中に掲げられております。

伊熊委員のおっしゃるとおり、この防災リーダー会さんとの協働事業で開催する講座、これだけではないねというのはもちろんそうです。今、毎年秋にやっておる総合防災訓練、これは毎年やっておりますけれども、各行政区、それから小学校区単位で防災訓練、避難所運営訓練、避難訓練、こういったことを活発にやられるようになっております。そういったところでも女性の参加、女性の視点で避難所での生活が始ま

ったときにどういったものが必要かというようなところをどんどん意見を言ってもら
うとか、そういう視点で訓練に参加してもらいたいということで、これは非常に大事
なことだと思っています。

その件については3ページ、自主防災会を所管しておるのが消防総務になります。
防災・減災の取り組みは危機管理が中心になっておりますが、昔から自主防災会の補
助金のお支払いとか、そういった事務は消防総務課でやっておる関係でこういった整
理をさせていただいたということなんですね。

この防災リーダー会さんとの協働事業による講座、それから次の3ページの避難所
運営訓練であるとか、こういったもので現在も防災・減災対策の事業は大体これで網
羅されているのかなというふうには思っておるところであります。以上です。

[代田会長]

ありがとうございます。管轄の違いなんですね。
それでは、そのほかいかがでしょうか。

[近藤委員]

自治会の役員における女性登用率というのはどういう意味なのか、少しまず現状等
お話ししていただきたいと思います。

先ほど伊熊委員からも言われたように、うちの区は女性のほうが逆に多いです。私
も十数年役員をやっておるんですけど、大体うちの区は専門員、役員が25人ですね。
そのうち女性は65%ぐらいです。

特に子ども会は、十数年もう100%女性です。だから、もう達成されているような
気がして。

[平岡館長]

このことに関しては、区長さんのことで、区長さんのほとんどが男性いうところ
です。

[代田会長]

恐らく、今子ども会のお話をされましたけれども、子ども会の役員はもう女性ば
かりですね。だから、性別による役割というものが町内会の中でも明らかに
出ている問題なんだと思うんですね。

だから、区長とか副区長とか、そういった最終的にはいわゆる意思決定にかかわる

ところを女性がどれだけやっているかということじゃないでしょうかね。

[近藤委員]

うちの区でいいますと、女性が仕切っていて、本質的には女性が一番リーダーという感じでやってみえるんですけど、これはすごく今問題視していて、何で子ども会がお母さんだけしか来られない状態なのか。役員会の日ぐらいはお父さんが帰れないのかなと思います。

男女共同参画も今、普及員も十何年やっているんですけども、その主催で何かやろうということをお願いしたときに、男性の方は来ていただけるんですよ。だけど、子ども会の若いお父さんは絶対来ない。若いお母さんが今日はお父さんは仕事ですから帰れませんと平気で言われるんですよ。女性に来ていただくのはいいんですけども、少しおかしいなというのは思う。

そういう今社会なんで、役員の方が女性、それも奥さんの役割なんですよ。男性はもう家庭の中では女性が役員会に行くものだ、という意識ですね。

あとは、ほとんど皆さん高齢化されて、若手の役員のやり手がいない。若手のお父さんは逃げている。そんなふうですから、皆さん多分苦勞されていると思います。

この数字を、区長さんをやればよいという問題じゃないなあという感じもします。今現状こうなので、女性の区長さんの登用率を上げる意味があるのかなと思うんです。

[平岡館長]

もともと男女共同参画の視点では、先ほど会長がおっしゃられたように地域の意思決定できるところの役員として区長というところ、今まで男性社会でいろいろ決めているのが男性であったということですね。それでおっしゃるとおり区のこと、実際働いてみえるのは女性なんですけれども、名前としては男性の名前が区長さんとして出ているので、女性の方でやっているなら区長さんは女性の方になればいいんですけど、そこで先ほど役割分担で、こういうのは男性という意識が高いところを変えていかなければということと、女性も自分たちから表に出て役員をやる方向に行きたいですねというのが目標です。

[近藤委員]

そのほうがわかりやすい。

[代田会長]

そのほか、いかがでしょうか。

[平林委員]

よろしいですか。

5ページですが、行政経営課ということで、女性職員を積極的に管理職に登用するという表現で目標数値10%ということですが、もう一遍、課長補佐制度を復活させて、それによって女性管理職をふやすというような形がとれないかなあと考えております。

やはり係長から補佐、課長になる前にモチベーションがなくなってしまうので、職員の方々も非常につらいと思うんですよね。やはり課長補佐制度があって、初めて課長補佐になって管理職になって、そこから課長にもう一步ステップアップするということが必要じゃないかと思っています。

課長補佐を入れることで少しモチベーションを高くして、女性管理職のちょうど中間で課長補佐があって、係長になるまで自分が切磋琢磨することによって課長という席になった場合にもっともっと勉強してきたことの成果が出てくるんじゃないかなと思います。

[伊藤部長]

ありがとうございます。

この課長補佐職の廃止というものは、数年前に市長がその方針を立てられて、まだ今完全に廃止されたわけじゃなくて一部残っておるような状況です。

確かに、平林委員がおっしゃるように、部署によって残したほうが良いというところもあったりしますし、女性管理職、女性職員の登用ということを考えてときにあるといいなというふうに私も思います。

ただ、まだここ数年、課長補佐を廃止していつておる中でまだまだどういう形が効率的なのかを探りながらというようなところもあって、今その途中段階なのかなというところでも思っておりますので、今しばらくはこのままの方針だと思います。

[平林委員]

しばらくは待てないので、早目に復活させないと、女性もそうですけど男性のモチベーションが下がってしまいますよ。総合的に見るとやはりもう少しモチベーションを高めるためには補佐制度を設けて、女性の係長、男性の係長が管理職に向けていくことによって、もっと庁内が明るくなるのではないかなあと私は思っています。

言いたかったのは何かというと、この数値目標では、現状、女性の課長補佐がい

るのだから、課長以上ではなく、課長補佐以上としてはどうでしょうかということ
です。

この率を高めることによって、もう少し周りの方が補佐の必要性を思ってもら
うことが私の希望でありますので、それを申し述べさせていただきました。

〔伊藤部長〕

わかりました。

〔代田会長〕

確かに、いきなり係長から課長となるとハードルが高いので、逆に女性も腰が引け
ちやうというところがあるかもしれませんよね。

そのほか、いかがでしょうか。

〔大鹿委員〕

全体ということでよろしいですか。

これだけ見ていると、31年度については何となく全体にトーンダウンしているとい
うふうが多いような気がします。例えば協働推進課ですが、関心が低いから変更する。
本当に問題がなくて関心が低いのならいいんですけども。どのように進めていただ
けるのか、今後の取り組みかとは思いますが、何となくその辺が逃げ腰的な
要素を感じました。

あるいは、7ページの介護保険課について、見ている限りでは明らかにトーンダウ
ン、あるいは縮小化ではないんだろうかと。ほかに取り組みがあるのかなあというこ
とは思います。

あるいは、広報広聴課ですか、各課からの情報提供がなかったらやらないみたい
な感じを持ちましたので、それぞれ新しい取り組みがわかるような目標というのか、そ
ういうのも設定していただけたら素人が見てもわかりやすいのかなということ
を思いました。

〔坪井係長〕

今お話のありました7ページの介護保険課についてですが、これはいままで具体的
な目標設定がされていなかったため、31年度、介護支援専門員や介護サービス事業所
の職員に対しての研修を数値目標として設定した関係でほかのところについては削除
というふうな形にはなっておりますが、削除した部分についてもそのまま進めていき

ますということで伺っております。

〔代田会長〕

なるほど、やらないわけではないんですね。

〔坪井係長〕

はい。重点目標ということで、それらに絞るということです。

〔代田会長〕

そのほか、いかがでしょうか。

〔宮崎委員〕

1つよろしいですか。今の話と少し似ているのですが、重点目標の中で各課を全てどのような状態にするのかというのが理想の形というのが見えなくて、例えば登用するとか、研修をするとか、実施するとか周知を図るとか書いてありますが、なかなかこうすることでその先がどうなっていくかということが見えない。

例えば4ページの消防クラブ、年間2名から9名に増員して指導課に派遣すると書いてありますが、派遣することによって何が変わっていくのか。人数がふえたことによってこういう状態になるというのが見えなところがあるように思います。

その9名にすることによって、実はこれだけの地域を賄えるようになるとか、その辺少しどの課のところも実施すると周知を図るとか、その先のビジョンが見えない。結果としてどうなっていくのかといったところまで立ち入ってもいいのではないかと感じます。

〔坪井係長〕

ハーモニーⅢのそれぞれの各項目、施策の方向、それぞれの課で具体的な事業を展開しておりますが、今のこの目標管理シートですね。いつまでにどのような状態にするのかというところで、いつまでにという部分は、このハーモニーⅢの最終年度、この期間の最終年度ということの設定になっています。それまでにそれぞれについてどういう状態にしていくのかというところを各課で目標を立て、それに対して具体的に数値目標を立てる、年度刻みで今年度はこの部分まで行きますよ、来年度の目標を立てるに当たっては、今がこれぐらいの現状なので来年度については目標についてもっと上向きに行けますよ、それか余り今年度芳しくないで少しやり方を変えて、少

し目標を今年度の方も含めて上げないといけないので下げますよとか、そういったような形で各課ではそれらを考えていただいて設定はしていただいております。

〔代田会長〕

年度ごとの実績に応じて見直しをかけているんですね。

でも少し、さっき宮崎さんが発言されたように、ビジョンの部分の部分を少し触れてあるとわかりやすいですね。

そのほか、いかがでしょうか。

〔松田委員〕

8ページですけれども、この赤字というのを見てみると、事業所が保育所開設に向けてというところはもう削除ということになって、かわりに市直営の小規模保育園「こすも」というのが開園ということで、その事業内保育所開設に向けた協議というのは停止ということになったということなんですか。教えてください。

〔伊藤部長〕

事業所内保育所というものは企業が開設する保育所で、CKDで開設されるという話がございまして、その調整がずうとなされておったようですけれども、これがもう開所したということです。

〔代田会長〕

そうすると、平成31年度の経過目標は待機児童数10人になっていますが、その「こすも」が開園されれば、ここはゼロという考えでいいんですか。

〔平岡館長〕

これは4月1日時点での待機児童になります。

〔代田会長〕

わかりました。

次の32年がゼロになっておるわけですね。

(2) 平成31年度教育委員会基本方針重点施策について

[代田会長]

そうしましたら、次の議題に移ります。

議題の2、平成31年度教育委員会基本方針重点施策ですね。これとあわせて3、平成30年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について進めていきたいと思ひます。

まず事務局から御説明、よろしくお願ひいたします。

[平岡館長]

それでは、資料2をごらんいただけますでしょうか。

平成31年度小牧市教育委員会基本方針になります。

平成29年3月に策定いたしました小牧市教育振興基本計画の教育施策を総合かつ計画的に推進するために、具体的施策の検証を毎年行うものでございます。施策の21が男女共同参画の実施として該当しておりますので、皆様に評価をいただきたいと思ひます。

資料3をごらんいただきたいと思ひます。

点検評価シートにつきましては、係長の坪井から説明させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

[坪井係長]

それでは、点検評価シートにつきまして、説明させていただきます。

表にはそれぞれ講座の回数、定員、受講者数、託児の人数を記載させていただきました。

では、参考資料の1をごらんください。

こちらは各講座の申込状況をまとめたものになります。それぞれの講座の定員、申込人数、申込率、受講決定人数、男女の内訳、託児の定員、託児の申込人数、申込率、託児決定人数を記載させていただいております。

点検評価シートの受講者数とこちらの申込状況、参考資料1の受講決定人数、こちらをリンクさせていただいております。

参考資料の2をごらんください。

こちらにつきましては受講状況をまとめたものになります。それぞれの講座の各回の出席人数及び出席率、そして全体の出席率について記載をさせていただいております。

こちらの3点の資料をあわせてごらんいただきながら、御意見をいただきたいと思

います。

それでは、戻りまして資料の3をごらんください。

男女共同参画講座の実施ということで、教育振興基本計画の施策の21に該当するものでございます。

達成状況は、平成30年度におきましてはハーモニーⅢの基本目標をもとに4つに体系化した23講座を実施いたしました。また、前年度に比べ男性を対象とした講座をふやしたため女性の受講者数は減少しておりますが、全体では増加をしております。

まず1つは、男女共同参画意識の向上のための男女共同参画講座を13講座実施いたしました。男女共同参画普及員講座につきましては、普及員研修会を初め男女共同参画講座の一部を普及員講座として位置づけたため、別に記載をさせていただきました。その内容については表のとおりでございます。

2点目に、男性の家庭生活への参画のための男性支援講座を6講座実施いたしました。

3点目に、女性の自立、再就職支援のための就労支援講座を3講座実施いたしました。

4点目ですが、働きやすい環境づくりの啓発のための企業啓発講座を1講座実施いたしました。この講座は、一般社団法人女性労働協会からの講師派遣という形で協働開催をいたしました。

最後、5点目は男女共同参画サテライトセミナーを1講座実施いたしました。この講座は公益財団法人あいち男女共同参画財団との協働により開催をいたしました。

課題ですが、男女共同参画に特化した講座であることから、受講者数が伸び悩みました。今後、SNSの活用など、募集方法の工夫が必要であると考えております。

次に、託児の需要が見込みより少なかったことから、講座の開講時期により託児定員を調整することが必要であると考えております。

今後の取り組みの方向性ですが、引き続き対象を絞って講座を実施したいと考えております。

次に、広報やチラシによる募集だけでなく、ホームページやフェイスブックなどのSNSを有効活用していきたいと考えております。

さらに、さまざまな世代の人が申し込みしやすいように、往復はがきによる申し込みだけではなく、ホームページの申込フォームやメール、ファクスでの申し込みも実施していきたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

[代田会長]

ありがとうございました。

基本的にはこの資料3について、30年度の実績が載っておりますので、これに基づいて委員の皆さんから御意見を出していただき、審議会の意見として評価委員会に提出するということですね。

よろしく願いいたします。お気づきになった点、御自由に。

[籠橋委員]

資料3の男性支援講座の中の父と子で楽しむ料理講座、前期・後期、これがいずれも8組で、参考資料の1を見ると申込率が3倍、2倍になっているのですが、前年度分も見てみると、父と子のパン教室も3倍ぐらいの申し込みがあつて、すごく人気の講座なのだなと思ったんです。前期・後期というのは、1年に2度、3回ずつやっでいらっしゃるということで、これをもう少しふやすということはできないのですか。

[平岡館長]

親子で料理というのは人気のある講座なので、これをやればどんどん受講者はふえ、全体の受講者数では上がってまいります。この講座だけをやっているわけにもいかない。バランスよく幅広くいろんなジャンルでやっていきたいと思ひます。

ただ、そうはいつても人気のないものもござひますので、そういうところの組み合ひも考へて今後やっていきたいと思ひております。

[籠橋委員]

この講座で気になったのは、ただ申込率が高いから増やそうというだけではなくて、その講座にいらっしゃる方というのは若い子育て世代のお父さんであつて、男女共同参画に興味のある方なのかなと思ひます。この方たちは何を見て、どんなチラシをどこのルートからもらつて申し込まれているのかだとか、この方たちを通して広報とかアプリとか何かできないものかと、その辺りが気になったものですから。

[平岡館長]

そうですね。ありがとうございました。

おっしゃるとおりでして、実は私も今課題の中に、講座は実施するのですが、広報等にこういう講座をやりますよというので男女共同参画の意識があるかどうかがいまひとつ見えてこないんです。

特に若い方が参加していただけたところに関しては、最初にこの目標というか、今回の趣旨というのをきちっと説明してやっていきたいと、来年度の講座については今検討しているところでございます。ありがとうございます。

〔代田会長〕

何か別の講座にうまくつなげられるといいですね。

例えば、料理なんですけど、その上に片づけ編なんかがあるじゃないですか。これは定員が20に対して13名なので定員を満たしていないんですけど、この片づけのノウハウは学んでみてどうですかみたいな形で勧めてみるとかですね。それができるといいですね。

〔平岡館長〕

そうですね。その単体でなくて、いろんな組み合わせでやっていくことが必要だなというふうに考えておりますので、またいい案がありましたら、ぜひ皆さんからも御意見いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

〔松田委員〕

私、まなび創造館で映画の講座を受けているんです。すごく楽しく受けさせていただいているんです。それは私、ここに来て、審議会か何かで見たのかな。チラシがあって、見て申し込んだんですけど、そのときにぱっとここで申し込みをしたら、はがきを買ってきてくださいと言われてですね。正直、面倒だなと思ったんですけどね。

そういう意味で、少し申し込みというのにハードルが高いなというのが実感としてありました。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

今回、課題というところにも書かせていただいておりますが、特に今スマホの時代ですので、スマホで簡単に申し込みできればということもあると思うんですね。特に若い世代はそうだと思いますので、名画鑑賞会を3月10日にさせてもらうんですが、申込みフォームをつくりまして、パソコンとかホームページから申し込みができるようにさせていただきました。

お客さんが来たときも、はがきのところが本当に私も悩ましくて、すごく思ってい

ます。そこで聞いて、例えばメールで送っていいんだよとかファクスでというのであれば、そこで回答できるので、はがきをお持ちいただくなくてもできるのかなと思って、またいろいろそうやって変えていきたいと思っております。

〔松田委員〕

補足で、私たちもいろいろ講座とか映画会とか講演会とかを開催するときに申込方法をどうするかというのがやはりいつも課題になっていましてね。最近だと、eメールとファクスとはがきという形でやっているんです。ファクスが一番評判悪くて、ファクスを持っている人は少ないから。やはり若い世代はメールが多いですね。少し年配の方だとはがき、またはファクスが多いということですけど、でもそうすると往復はがきは124円かかると言われたりするところが私たち悩みなんです。そんなふうで、やはり世代によって申し込むツールが違ってくるというのは実感しています。

〔平岡館長〕

おっしゃるとおりなので、複数の方法で受け付けできるようにさせていただくようにしたいと思います。

〔代田会長〕

はがきも残すんですね。

〔松田委員〕

はがきも残さなきゃだめですよ。

〔平岡館長〕

今回、名画鑑賞会はほとんどはがきです。メールは少ないんですが、ただ今回特に映画ということで、市外の方のメールでの申込みが多かったです。

〔伊熊委員〕

この課題のところで、託児の需要が見込みより少なかったのもということで、講座開設、開講時期により託児定員を調整するということですが、どういう意味でしょうか。

〔坪井係長〕

託児の人数ですが、全ての講座に託児をつけたいというようなこともありまして、あとプラス若い世代をターゲットにしているものについては託児枠を広げたいということもあり、全て年度当初に大体割り振りをしますが、その予測をすごく裏切られた状況、思ったよりも託児の需要が少なくて、そういうことであればもう少し、例えば秋のあたりの講座のところで託児の人数をふやすことができたかなとか、冬の時期ですと託児を多くしていてもインフルエンザだとかが流行するようなこともあって、どうしても減ってしまうというようなことで、講座自体もできるだけ若い方というよりも、少し子育てから手が離れた世代をターゲットにして、託児についても需要が減るようなものとか、そういったような企画の仕方とか、そういったこともその時々できちんと計算をかけて開講していく必要があるかなということ、今回の課題に書かせていただきました。

[平林委員]

参考にお聞かせ願いたいのですが、就労支援講座の女性のための就労支援パソコン講座、初級、中級とあるんですが、これは場所はどこでやられるんですか。

[平岡館長]

市の公民館で、e-コミさんをお願いしています。

[平林委員]

事業者のパソコン講座を民意圧迫するということで会議所はもうやめたんですよね。ですが、e-コミさんだったら民意を圧迫する心配が全然問題ないですね。ありがとうございました。

[代田会長]

そのほか、いかがでしょうか。

[大鹿委員]

全体ということでいいでしょうか。

各講座のネーミングについて、何かとてもネーミングもすてきになっているような気がして、おもしろそうと思うようなものがたくさんありましたので、受講者数の多いものも結構たくさん出てきたのかなあということを思いました。

何となくネーミングから想像するものの、ぼんやりしているものについては、やは

り興味が薄いのかなということも思ったものですから。

それと申込方法なのですが、先日、ことし厄年になる40そこそこの子たちの同窓会に参加したときに、ちょうど40というと子育て真っ最中というところですが、男女共同参画というそういう肩肘張った感覚ではなくて、普通に「僕はイクメンやっている」とか「奥さんの出産にも立ち会った」という子が意外と多くて、ただ中途半端な年代なんですよね。結婚していない、特に男性の未婚率も思ったより多かったですけれども、何か普通の感覚でイクメンをしていると口外できる、自信を持って言える、何かそういう子の割合が私が思っていたよりも、ごく一部の地域かもしれませんが多かったもんですから、だんだん小さいうちからそういう教育などをしてくれば、そういうのは無意識のうちに育ってくるのかなあと思いつつ、かといって一番忙しい40代ですので、多分はがきでは申し込みにくいということで、今後SNSを重点的にということで大変にありがたいなと思いました。

同窓会に参加して何か小牧の未来は捨てたもんじゃないなあと思いました。

〔武藤副会長〕

課題のところで、今後の取り組みというところにSNSの有効活用とあるんですけど、広告やチラシだと勝手に配られて自然に見る機会があると思うんですけど、SNSも結局は自分で情報を取りに行かないと見られないので、何か仕掛けがないとなかなか難しいかなあと思います。講座の申し込みにはここを「いいね」にしないと申し込めないとか、何かそういう仕掛けというものがなくて、なかなかそれを自分のところに取り込んでくれないというのがあると思いますので。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

名古屋工業大学さんとかで、何かそういったいい展開はありますでしょうか。

〔武藤副会長〕

うちの大学でも、なかなかSNSが有効活用できていないんですけど、個人的に何かお店とかに行っても「いいね」を押そうと思うのは何か特典があると押すというのがあるんですね。そうすると、そこのお店情報がどんどん来るので、やはり何か特典のような形で与えられるものがあるといいかなと。

〔平岡館長〕

ありがとうございます。

〔伊熊委員〕

これ各講座、先ほど言われたようにおもしろいタイトルだと思います。

これはやはり一つ一つアンケート調査に入っていますでしょう。アンケート調査で得られた結果で、こんなところがよかった、悪かったかということ何か別にでいいですから、そういうのがあると今後いいかなあと思います。先ほど出ていました回数じゃなくて中身がどうなのか、こうなのかといったところが見たいなあという感じがいたしました。

〔代田会長〕

そのほか、よろしいでしょうか。

〔籠橋委員〕

資料3の企業啓発講座、これはたしか29年度に、人が集まらないということで、時間外に検討しているということで説明いただいたかと思いますが、参考資料2の「ハラスメントのない職場づくり」で男性の出席者が41人集まっているのは、夜間とか休日に開催されたということでしょうか。

〔平岡館長〕

この日はノー残業デーで、夜7時から開催いたしました。連合愛知尾張中地域協議会というところに小牧市の職員組合を通して出席の啓発をお願いしたことで、たくさん男性の方に出席いただきました。アンケート結果ではありますが、ノー残業デーの日だったので7時は遅かったんじゃないかと言われてまして、もう少し早く6時半でもよかったかなと思っております。以上です。

〔代田会長〕

そのほか、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

〔代田会長〕

そうしましたら、今皆さんから出していただきました意見について、審議会の意見

として評価委員会に上げていただきたいと思います。よろしくお願いします。

一応これで本日の議題についての審議は終わったということでございますね。
その他、何かありますか。

5 その他

[伊藤委員]

この男女共同参画普及員の記事を見ていて、私がすごくひっかかったのが7ページのごみ分別講習会の後ろから3行目、素直に「手伝うよ」が言えないお父さんとあるんですね。これは基本的には奥さんが主体的に仕事をするものであって、お父さんが手伝うよというのは、これは妻の立場からすると、これを言われると非常にいらっとするんですね。

うちは今、一番上の娘が中3で、昨年ワイアンドット市への派遣に行かせてもらったときも非常に女性がやる気があって女性のほうが多かったですね、小牧市では。こども議会の議長もうちの娘がやらせてもらったんですけども、私の古い考えだと議長は男性というイメージがあったのですが、今、子供たちの中では中学生の時点では男女差は関係ないという感じになっているんです。それが10年たつと、いつの間にか何かこういう手伝うよみたいな意識になってしまうのが非常に悲しく思うので、本当にこのちょっとした言葉なんですけど、できたらこういうのは気をつけていただきたいなというふうに感じました。

[平岡館長]

2月1日号の広報に男女共同参画普及員のことにつきまして掲載いたしました。

今の御質問いただいたところですが、これは普及員さんが活動された中の講座の中でいただいたものをそのまま載せていますので、確かにおっしゃるとおり一緒にやるべき家庭の仕事を「お手伝い」というところが、いらっとするというような御意見を聞いたことがあります。イクメンパパも、何かいいところだけとっているんじゃないかという話も聞いたことがあります。その辺について啓発が足りないかなと思っておりますので、今後活発に啓発していきたいと思っております。ありがとうございます。

[代田会長]

それでは、これで議事が全て終わりましたので、事務局にお返しいたします。

[平岡館長]

それでは、長時間にわたりまして御審議いただきまして、まことにありがとうございました。本日いただきました御意見はそれぞれ担当課へ伝えまして、男女共同参画の推進をしてまいりたいと思っております。

これをもちまして、第3回小牧市男女共同参画審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。